



写真で見える静岡商工会議所の動き

「静岡で働く魅力発見」セミナー

6/27・7/3・12・13

首都圏の4つの大学において、学生と静岡の若手社会人メンターとの交流を通じて、静岡で働く魅力を発見してもらうためのセミナーを開催しました。毎回、静岡へのUターン就職に興味を持つ多くの学生が参加し、学生にとっては、知らないようで知らない静岡で働く魅力を発見する良い機会になりました。



•メンターと交流し、静岡の魅力を再発見する学生ら

清水七夕まつり 七夕神社開設

7/6



• 7月6日 七夕神社を開設

聖一国師顕彰会 水汲みの儀、博多祇園山笠訪問

7/7・15

当所女性会は、清水七夕まつりにおいて、地域貢献事業の一環として「七夕神社」を開設しました。まつり期間中の全4日間を通して、来場者への短冊の配布やおみくじの販売などを行いました。天候に恵まれ、願い事などの短冊は合計1万7千277枚でした。短冊は、7月11日、小芝神社へ奉納しました。

7月7日、聖一国師顕彰会(会長・酒井公夫会頭)では、福岡市の「博多祇園山笠」に届ける水を汲む儀式を静岡市葵区柝沢の聖一国師生家である米沢家で行いました。国師が開いた福岡市の承天寺や京都市の東福寺の僧侶らが読経し、顕彰会関係者、地元住民ら70人が見守りました。



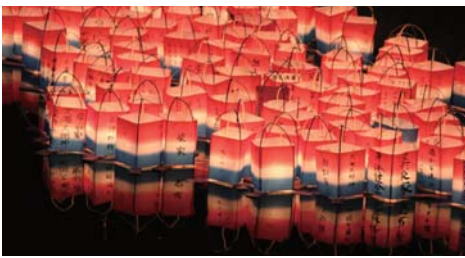
•水汲みの儀(葵区柝沢 米沢家)

7月15日、「博多祇園山笠」のクライマックスである「追い山」には、静岡市から100名を超える訪問団がかけつけ、7月7日に汲み上げた水を山笠や男衆に向けて盛大に撒きました。博多祇園山笠は約800年前、博多一帯で疫病が流行した際、聖一国師が施餓鬼(せがが)と呼ばれる台の上から、清めの水をまいたのが起源とされます。米沢家で汲んだ水を届ける交流事業は今回で9回目となります。

清水巴川灯ろうまつり

7/16

亡き人を偲び、家内安全、交通安全、無病息災の願いが込められた約4,000個の灯ろうが巴川に流されました。また、巴川手筒花火の会による手筒花火と打ち上げ花火が披露されました。



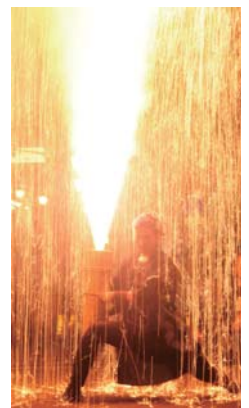
•さまざまな想いを込めて流された灯ろう



•承天寺(福岡市博多区)にて、水渡しの儀

企業経営者と大学生との交流会

7/27



•地元有志の会による勇壮な手筒花火

当所役員議員等約50人と静岡大学の3年生を中心とした約120人の学生に参加いただき、交流会を開催しました。学生4人と経営者1人のグループになり、学生は就職に対する疑問や悩みをぶつけ、経営者は自らの経験をもとに社会人としての心構えや、学生のうちにやるべきことなどを助言しました。普段は接する機会が少ない経営者との会話に、学生は真剣な表情でメモを取りながら聞き入り、大変活気のある交流会となりました。



•経営者のアドバイスに聞き入る学生ら



•交流会について説明する酒井会頭